

遺伝子組み換えワクチン早期投与によるHBV母子感染予防の検討

(分担研究：B型肝炎母子感染防止対策の追跡調査および効果判定に関する研究)

研究協力者：多田裕^{1, 2)}、

共同研究者：三科潤^{2, 3)}

要約：

HBV母子感染防止の目的で、遺伝子組み換えHBワクチン投与を生後6日から開始した場合と、生後2か月から開始する従来の方法を比較した。

早期にワクチン投与を開始した群では、生後早期から能動免疫の獲得が確認でき、抗体の持続にも差が認められず、最近のHBワクチンを用いれば、早期に投与を開始しても、従来の方法と同様な予防効果が得られることが明らかになった。

見出し語：HBV 母子感染予防 HBワクチン早期接種 能動免疫早期獲得

目的：

HBs抗原陽性の母親から出生した児に対しHBワクチン投与を生後6日から開始した場合に、生後2か月から投与を行なう従来の方法より早期に能動免疫を獲得できるかを検討した。

対象：

1992年7月から1996年9月までに都立築地産院にてHBs抗原陽性の母親から出生した臍帯血のHBs抗原陰性の症例を対象とした。

方法：

生後24時間以内にHBIG 1mlを大腿部に筋注射し、対象群には生後6日（新生児室退院時）に遺伝子組み換えHBワクチン0.25mlの皮下注射を

行ない、生後1か月に2回、生後3か月に3回目のワクチン投与を行なった。ワクチン接種時と3回接種後にPHA法によりHBs抗体を測定し抗体価の推移を検討した。

また、生後2か月からワクチン投与を開始する従来の方法で母子感染予防を行なったHBs抗原陽性（HBe抗原陰性）の母親から出生した23例を対照として抗体産生効果を比較した。

結果：

HBs抗原陽性/e抗原陰性の母親から出生した41例および、HBs抗原陽性/e抗原陽性の母親から出生した8例に対し、HBワクチンを生後6日から投与した。

1) HBs(+)/HBe(-)の母体から出生した児に対する効果

3回接種後の抗体価は、早期投与群（生後6月）では2例以外は 2^3 以上の抗体価を示した。29例、88%は 2^5 以上であり、 2^7 以上が最多で14例、42.4%であった。従来法の3回接種後（生後6から9か月）の抗体価は全例 2^3 以上の抗体価を示したが、 2^6 が最多で13例（56.5%）であり、早期投与群の抗体価が高値であった。

早期投与群でワクチン3回投与後の抗体価が 2^2 未満となった例が3例あったが、1例はワクチン追加投与後の抗体価が 2^8 を示した。

1例はワクチンの追加投与を行ったが、追加接種後には連絡しても来院しなかった。他の1例はワクチン追加投与後の経過観察中である。HBs抗原が出現した例は無かった。

2) HBs(+)/HBe(+)¹の母体から出生した児に対する効果

HBe抗原陽性の母体から出生した児7例に対してもHBワクチン早期投与を行った。3例は、ワクチン3回投与後の抗体価が 2^4 以上であり、HBIG追加投与なしでも抗体価は保たれた。

1例は3回投与後の抗体価が陰性となり、HBIGおよびワクチン追加投与を行った。1例は3回投与後の抗体価は得られていない。また、従来法との移行期の症例のためHBIGを2回投与した2例中の1例は、2回目のHBIG接種を行わなくても抗体価は保たれたと考えられた。他の1例は抗体価の上昇が悪く、現在ワクチンの4回目の投与を行ったところである。HBs抗原が出現した例は無かった。

考案：

今回の検討で、出生直後のHBIG投与に加えて生後早期から遺伝子組換えワクチン投与を行う方法で十分な抗体が獲得され、少なくとも1歳までは従来法より高い抗体価が維持されていた。ワクチンの早期投与により乳児期早期の抗体価が高く保たれていたため、この方法は入院中及び受診率が最も高い1か月と3か月の健診の機会に予防処置が行え、母子への負担を軽減できる有用な方法と考えられた。また、症例数は少ないが、HBs抗原、HBe抗原ともに陽性の母体から出生した児も、早期投与により抗体の上昇を認めたため、何らかの理由で2回目のHBIG投与が行われなかった場合でも、抗体価を高く維持できる可能性があり、HBワクチンの早期投与は今後検討されるべき方法であると考えられた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

HBV 母子感染防止の目的で、遺伝子組換え HB ワクチン投与を生後 6 日から開始した場合と、生後 2 か月から開始する従来の方法を比較した。早期にワクチン投与を開始した群では、生後早期から能動免疫の獲得が確認でき、抗体の持続にも差が認められず、最近の HB ワクチンを用いれば、早期に投与を開始しても、従来の方法と同様な予防効果が得られることが明らかになった。